

都立町田の丘学園（2年目）

【校長】 三浦 昭広
【生徒数】 372名
【学級数】 78学級



次の取組へ

【課題・改善】

○日常生活における運動時間の増加や食生活の改善

体力テストの数値に著しい変化はなく、質問調査の結果でも、運動時間など学校外での運動時間の改善や食生活の改善に関しては、変化がみられていない。生活・運動習慣を改善することは、一朝一夕にはいかず、長期的な取組が必要である。今後

- ①一人1台端末の活用（例：家庭で楽しめる運動の動画紹介）
- ②体育の研究授業での専門家の助言・指導を継続
- ③食育放送の継続的な取組について実践する。

【1年目における実態・課題】

<肢体不自由教育部門>

- 「学校以外で体を動かそう思う」「学校以外でも運動している」の割合が変わらなかった。学校以外での運動意欲にはつながっていない。

<知的障害教育部門>

- 多様な運動機会を創出し、運動する楽しさと経験を増やしていく必要がある。
- 実生活での健康と運動との関連、習慣化できる内容の構築。

⇒運動への意欲が低いと、運動機会を増やしていくことは難しい。
実生活の中での運動意欲を向上させるために、「運動有能感」をどのように高めていくかを、今年度の課題とした。

目標 運動の楽しさを感じ、基礎的な技能を身に付け体力を向上させる。
 （数値目標：調査「運動が好き」いいえを0%、体力テスト数値の10%の向上）
 自己の課題を見つける力を高め、実生活の中で運動をしようとする意欲の向上。
 （数値目標：調査「運動の頻度」の「毎日」「ときどき」の回数増）

【成果】

① 運動有能感を高める授業の工夫等による生徒の「運動有能感」の高まり

東京都統一体力テスト調査や「運動有能感」アンケートでは、「体育の授業は楽しい」「上手に身体を動かして運動ができるようになる」「運動は好き」などの項目で改善があり、「運動は好き」では肢体不自由教育部門では「いいえ」が0になる改善があった。ただし、体力テストの数値は10%以上向上した種目は4種目中、1種目にとどまり「運動の頻度」も変化はなかった。一人1台端末活用など授業の工夫での「運動有能感」の高まりは見られた一方、実際の体力の向上や実生活の運動習慣の改善には至らなかった。

② 食に関する知識の向上

アンケート結果では、食に関する知識の正答率の上昇がみられた。

【取組】

☆体育の授業での取組

- ICTの活用
 - ・一人1台端末を活用、動画撮影によるフィードバックやFormsを利用した自己評価。「見比べレッスン」アプリによる授業及び単元前後での変化の確認、自己の課題の発見。
- 外部人材等の連携
 - ・ポッチャ日本強化選手を招へい、高度な技術に触れスポーツの興味や意欲向上を目指す。
 - ・外部専門員の日本体育大学の村井氏に、運動有能感を高めるための授業の工夫や指導法、手立てを、研究授業にて助言を受ける。

○体育授業における環境の設定

- ・サーキット用品の購入により、体育での授業でのバリエーションを広げ、意欲を高める一助とする。

☆健康的な生活習慣の定着

- ・生活習慣の改善や食への興味関心を高めるための食育の実施。アンケート調査の実施。

【取組（詳細）】

研究主題「運動をしようとする意欲向上のため「運動有能感」をどのように高めていくか

【一人1台端末の活用】

① Forms を用いた自己評価とフィードバック

生徒一人一人ができたことを確認できるように、授業の終わりに到達度を自己評価する活動を取り入れた。生徒が残したコメントや自己評価に対して、教員からのフィードバックを残し、生徒たちの学びを深められるようにした。

② 見比べレッスンの活用

大型モニターを用いて、生徒たちと動きのねらいの確認をした。その際に、生徒の意見を書き込みながら、全体で動きの方法やねらいを考える学習を進めることができた。

【外部人材との連携】



ポッチャ日本代表、佐藤駿選手（株式会社 CAC ホールディングス、）が来校し、日頃の練習や試合の時の投球のねらいについて、実践を交えた講演を行った。投球の練習方法や様々な投球技術を実演し、生徒の技術向上と教員の指導の専門性の向上に寄与した。



④タブレット端末を使い、Formsで振り返り
⑤動画で撮影した自分の動きを確認



【運動有能感を高めるための授業の工夫】

①サーキットを活用し基本動作を楽しく習得する

基本的な動作を「楽しく」「反復して」行えるように工夫した。教員の期待、想定する動きだけを「適切」と決めつけることなく、生徒のアイデアを肯定し、「できたこと」に対して称賛をすることで、楽しく基礎的な動作の習得を目指し、運動への意欲を引き出した。



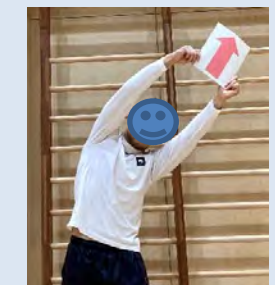
サーキットの活用

②「運動」の意義を学ぶ

「運動有能感」を高めるために、運動することの意義について、理解を図った。運動習慣の形成や運動の身体的効果・精神的効果、運動不足によって引き起こされる疾病などを分かりやすく説明した。

③「見える化」の取組

ケンステップや支援シートを使用して、足を運ぶ位置や力のベクトルなどを「見える化」した。



「見える化」の工夫

【健康的な生活習慣を定着させるために】

①食育メモの配布

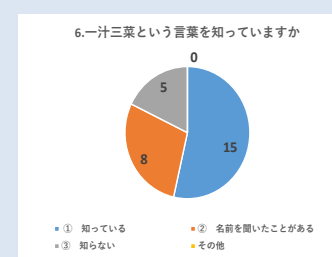
「食事の大切さ」「バランスの良い食事」等をテーマにした食育メモを配布。

②給食時間における食に関する指導の実施

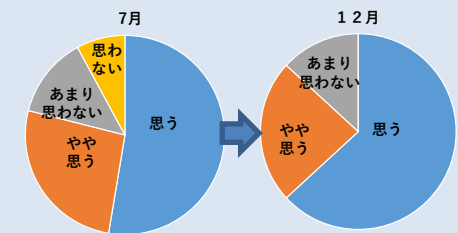
③食育放送



食育メモ



「一汁三菜という言葉を知っていますか」
「知らない」と答えた割合が、前年度43%より、食育指導後 18%に減少した。



保健体育の授業は楽しい